



くり返しアナウンスしますが、現在の高校1年生より、こうした内容の新しい国語のテストを受験することになります。文系・理系を問わず国公立大・私立大の多くの志望者がこれに備えなければいけません。しかも内容が学校の枠を超えた状況に関するものもあり、そして必ずしも高校生の日常生活とつながりが深くないものもあるため、短期間の準備では対応・対策が難しいと考えられます。また、いわゆるPISA（国際的な学習到達度調査）型の試験が意識されており、そこで問われるのが、「探求・取り出し」「統合・解釈」「熟考・評価」の三つの力です。つまり、より実生活に密着した「生きる国語力」が求められます。簡単に言えば、「現代社会で生活する上で、情報を正確に理解・把握・表現でき、より高い生活適応力と応用力があるか」問われるものであるとっていいと思います。これはなかなか大変な試験になりそうです。

参考文献：霜栄・清水正史 共著「大学入学共通テスト 国語記述対策問題集〈実用国語〉へのアプローチ」

## 【中学部】平成30年度都立高校入試〈倍率推移と変動理由〉

都立入試の受検倍率			
H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
1.41	1.43	1.43	1.36

平成30年度の都立入試の受検倍率は1.36倍。この1.36倍台というのは平成20年度入試以来じつに10年ぶりとなりました。過去3年間の倍率は上の表の通りです。昨年まで1.4倍台を推移しており高倍率が続いてきました。そのような中で迎えた今春の1.36倍台入試。倍率ダウンの主な要因としては以下のことが挙げられるかと思えます。

- ・大学のセンター試験の廃止。高校在学中のテストが大学受験に関係すること
  - ・今春の大学入試より定員が厳しくなり水増し合格の減少
  - ・私立高校授業料の無償化や補助金制度の充実
- など

では都立高校入試が楽になったのか（今後楽になるのか）というところでもありません。実際、数字だけ見ると人気校と不人気校に分かれただけであり、今春の普通科の合格率は、68.7%と70%を切っており（不合格者は11,712人）、やはり厳しい入試だったことに変わりはありません。高倍率の原因として、よくあるものを以下に挙げます。

- ・改築による新校舎での学校生活
  - ・制服のリニューアル
  - ・大学合格率（進学率）の向上
  - ・学級数の増減
- など

こうした影響により倍率がアップした高校を挙げておきます（下表）。

高校	井草(男)	南平(男)	日野台(男)	東大和南(男)	立川(男)	八王子東(男)
倍率	1.81倍	1.77倍	1.56倍	1.82倍	2.00倍	1.55倍
高校	小平南(女)	国立(女)	石神井(女)	保谷(女)	鷲宮(女)	神代(女)
倍率	2.03倍	1.86倍	2.01倍	1.70倍	2.02倍	1.81倍
高校	昭和(男女)	府中西(男女)	国際(男女)	小金井北(男)	など	
倍率	1.79倍	1.44倍	2.99倍	1.92倍		

受検倍率を均（なら）せば、昨年より下がりましたが、人気校の倍率は引き続き高騰していることがお分かりいただけるかと思えます。

また近隣高校の動向の大きなものに単位制高校の動向が重要です。単位制高校では男女合同募集のため、女子の入学生が多い傾向があります。今年はそれを敬遠してか、単位制の倍率が全体的にダウンしています。これは逆に単位制高校の近くにあるその他の高校は要注意ということも言えます。しかし、自校作成校についてはそういったものは関係なく、ほとんどの学校で例年2倍前後の高倍率となっています。

学校選びにはHPや受験案内、近隣の高校の動向を参考にすることはもちろん大切だと思いますが、3年間過ごす場所です。やはり実際に高校見学をしっかりとした上で志望校を決めましょう。

**【小学部】機関誌「バーガー」に ためになる記事が多数掲載されております。今月はどうぞそちらをご一読ください。**